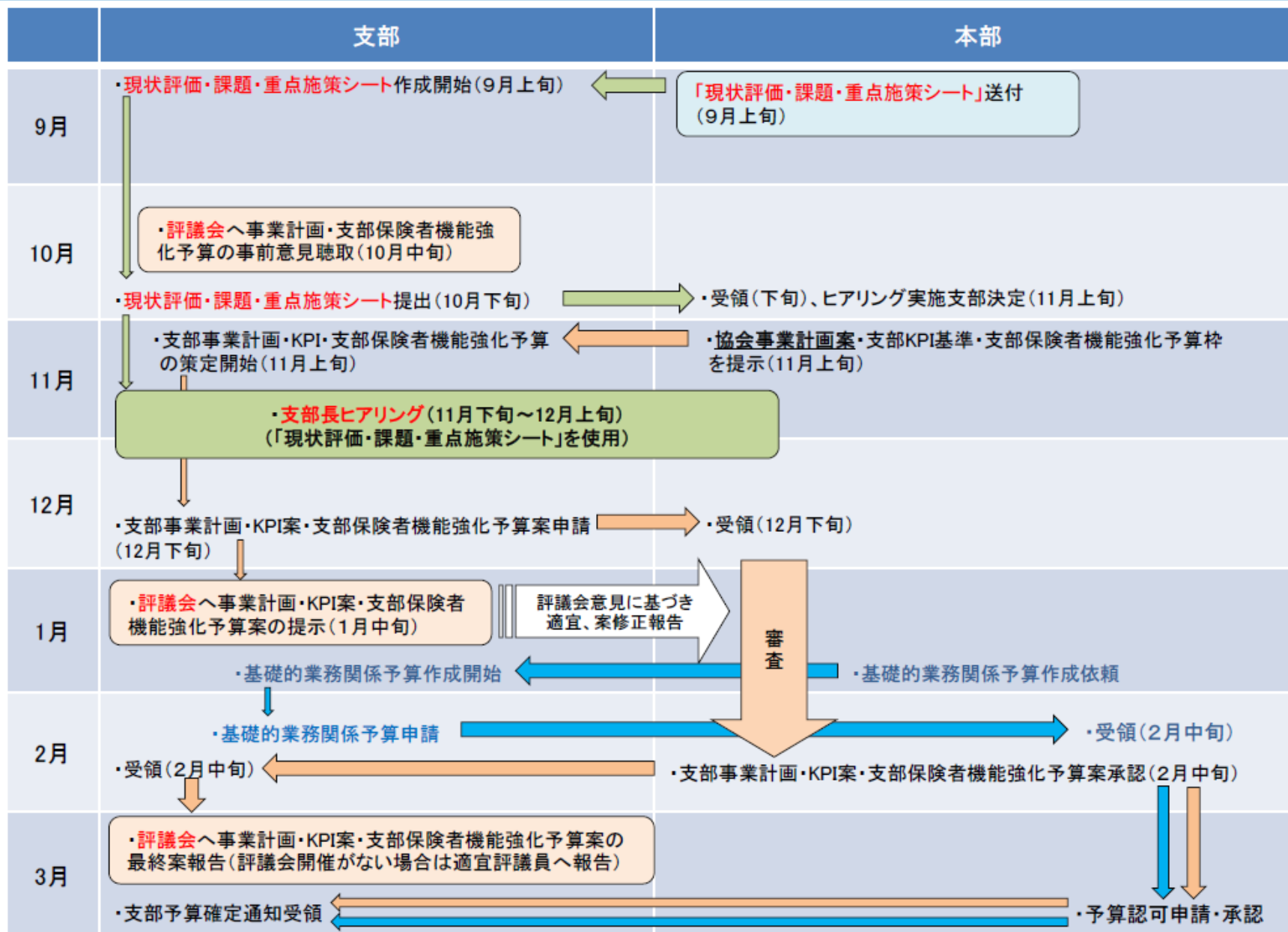


令和5年度支部事業計画及び予算 の検討について

(1) 支部事業計画・予算策定に関する全体スケジュール（見直し後）



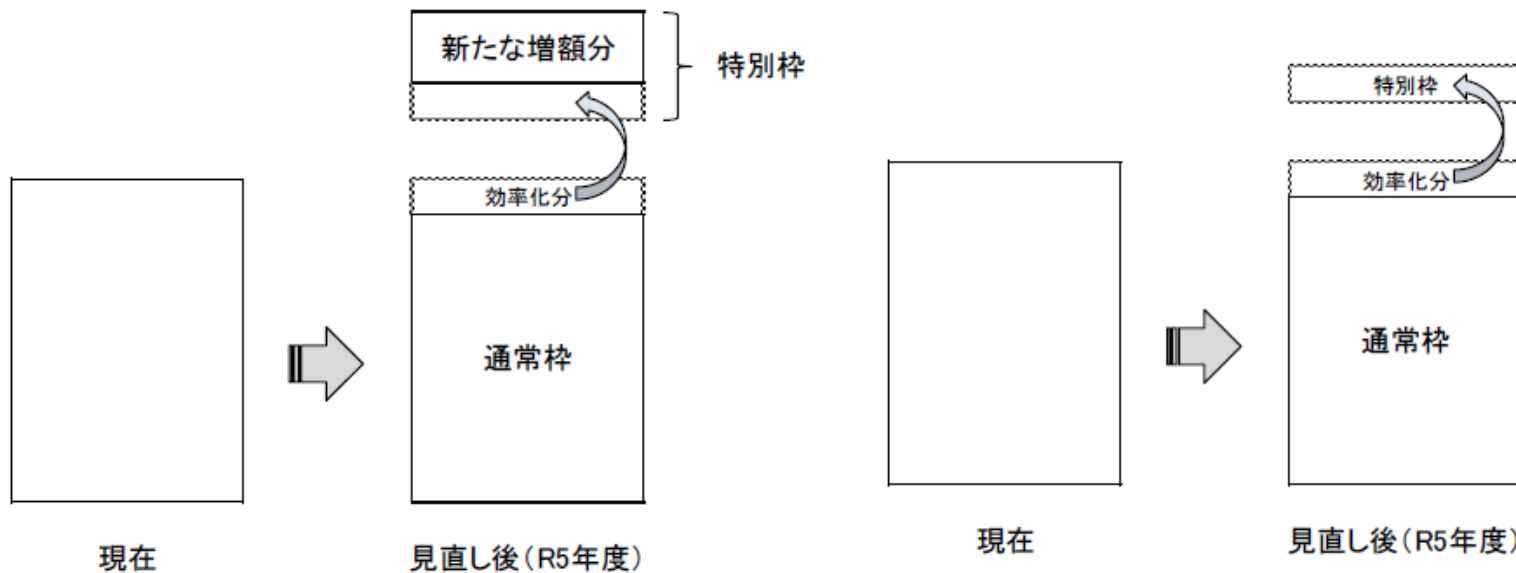
(2) 令和5年度からの支部保険者機能強化予算について

<見直しのポイント>

- 保険者機能強化予算の取組に意欲的な支部に対し、通常の予算に追加して予算措置を行う、「特別枠」制度を新たに創設する。
- 事業の性質に応じて、支部の予算申請や本部審査の重点化、簡素化を行い、事務の効率化を図る。

支部医療費適正化等予算

支部保健事業予算



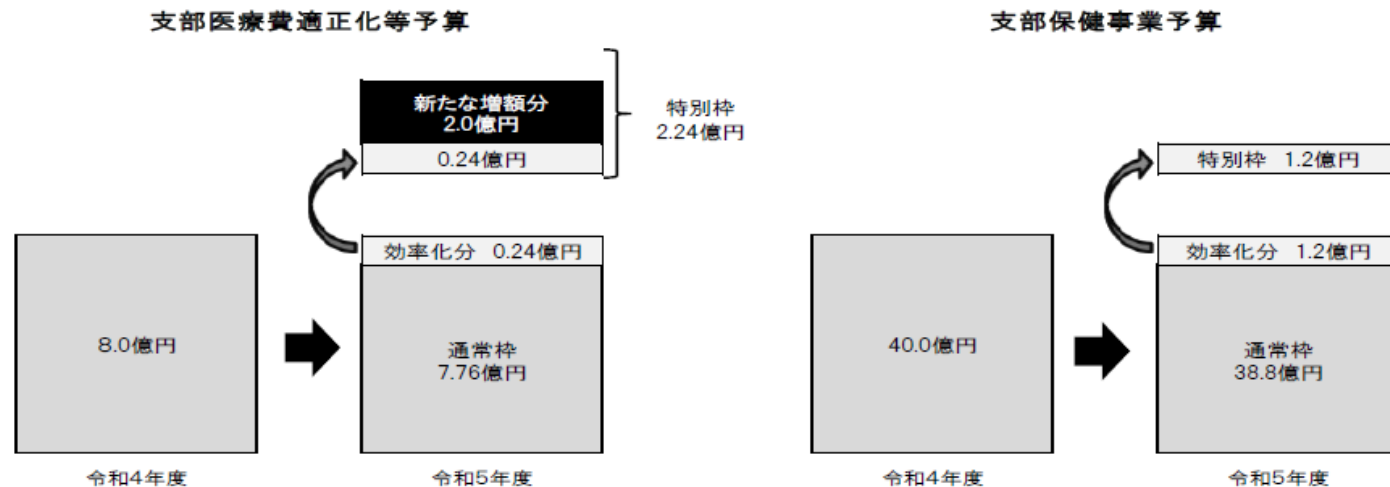
(2) 支部保険者機能強化予算の特別枠について

<令和5年度支部保険者機能強化予算の特別枠>

- 令和5年度支部保険者機能強化予算に新設する「特別枠」（エビデンスを踏まえた自支部の課題解決に向けた取組に意欲的な支部に対し、予算の「通常枠」に追加して予算措置するもの）は、以下の2点を踏まえ予算額を設定する。
 - ① 前年度までの予算執行率等を踏まえ、支部医療費適正化等予算及び支部保健事業予算の現行の通常枠（令和4年度ベース）から3%の効率化を図り、効率化した額の全額を特別枠として設定
 - ② なお、支部医療費適正化等予算は、支部調査研究事業の受け皿となる点等を踏まえ、令和4年度予算に2.0億円増額し、その全額を「特別枠」に振り向けることにより、意欲のある支部の取組を更に支援

【特別枠の予算額（全体）】

支部医療費適正化等予算：10.0億円（対前年度+2.0億円）のうち、2.24億円を特別枠とする
支部保健事業予算：40.0億円（対前年度±0.0億円）のうち、1.20億円を特別枠とする



<参考> 令和4年度富山支部事業計画（戦略的保険者機能）

1 第2期保健事業実施計画(データヘルス計画)の着実な実施

- 健診受診率、特定保健指導実施率向上
- 重症化予防対策の推進
- コラボヘルス(とやま健康企業宣言)の推進

KPI

- ・ 生活習慣病予防健診実施率、事業者健診データ取得率、被扶養者の特定健診実施率
- ・ 被保険者、被扶養者の特定保健指導の実施率
- ・ 受診勧奨後3カ月以内に医療機関を受診した者の割合
- ・ 健康宣言事業所数

データヘルス計画

- ・ メタボリックシンドロームの該当者及び予備群の割合を減少させ、全国平均以下にする

2 広報活動や健康保険委員を通じた加入者等の理解促進

- メディアを活用した広報の推進
- 適正受診の啓発
- 健康保険委員の委嘱拡大

KPI

- ・ 全被保険者数に占める健康保険委員が委嘱されている事業所の被保険者数の割合

3 ジェネリック医薬品の使用促進

- ジェネリック医薬品軽減額通知の実施
- データ分析に基づく医療機関や加入者への働きかけ

KPI

- ・ 支部のジェネリック医薬品使用割合
※ 医科、DPC、調剤、歯科における使用割合

4 インセンティブ制度の着実な実施

- インセンティブ制度の周知

5 地域の医療提供体制等への働きかけや医療保険制度に係る意見発信

- 医療計画及び医療費適正化計画に係る意見発信
- 医療提供体制に係る意見発信
- 上手な医療のかかり方に係る働きかけ
- 多剤服用者への介入(令和3年度パイロット事業からの継続)

KPI

- ・ 地域医療構想調整会議や医療審議会等の場における医療データ等を活用した効果的な意見発信

6 調査研究の推進

- 自治体(国民健康保険)との共同分析
- 支部医療費等の分析
- 睡眠習慣に係る要因把握に向けた加入者調査

KPI達成に繋げることが重要

<参考> 令和4年度支部保険者機能強化予算について

※詳細は参考資料2参照

- ① メディアの活用等によるPRの強化
- ② 特定健診・特定保健指導を始めとする保健事業の拡充
- ③ これまでの取組の継続・強化

1) 令和4年度の主な取組について

- 上記の視点を踏まえ、以下の取組を実施する。
 - 睡眠習慣に係る要因把握に向けた加入者調査【①, ③】
 - 多剤服用者への介入【①, ③】 ※令和3年度パイロット事業からの継続
 - 大病院受診時定額負担の周知【①, ③】
 - 特定保健指導の更なる推進【②】
 - 前年度特定保健指導対象者向け健診前勧奨【②】
 - 重症化予防対策の更なる推進【②】
 - 事業主とのコラボヘルス（とやま健康企業宣言）【①, ②, ③】

2) 令和4年度の支部保険者機能強化予算額

- 医療費適正化等予算（1,155万円）
 - ※ 広報や意見発信、ジェネリック医薬品の使用促進等の医療費適正化事業に充てられる予算枠
- 保健事業予算（4,459万円）
 - ※ データヘルス計画や受診勧奨対策、重症化予防対策等の保健事業に充てられる予算枠

富山支部 現状評価・課題・重点施策（案）

令和5年度 戦略的保険者機能に関する 現状評価シート〔富山支部〕

＜「現状評価シート」の使用目的＞

自支部の課題を抽出するため、適用情報、医療費情報及び健診情報の観点から、自支部の現状を整理、評価する際に活用いただくためのシートです。

＜「現状評価シート」で出来ること＞

- 自支部の適用情報、医療費情報及び健診情報の主要項目の過去3か年分の時系列データを表形式で見ることができます。
- 医療費情報（1人当たり医療費、受診率、疾病分類別1人当たり医療費、業態別1人当たり医療費）及び健診情報（健診結果、問診結果）について、全国平均と比較した場合の自支部の地域差指数-1（※）を、表形式及びグラフ形式で視覚的に捉えることができます。
- 1人当たり医療費及び受診率、健診結果及び問診結果については、全国平均と比較した場合の自支部の市区町村別地域差指数-1（※）の高低を見ることができます。

（※）地域差指数-1とは、医療費等の地域差を表す指標として、1人当たり医療費等について、年齢調整し、全国平均を0として指数化したものであり、0より大きい数値であれば、全国平均より高い水準にあり、0より小さい数値であれば、全国平均より低い水準にあることを示しています。



○富山支部の課題

1	◎睡眠で休養が取れていない者の割合が、全国平均を大きく上回る（全国1位） ・睡眠と関連のある「運動習慣要改善者の割合」も、全国平均を上回っている
2	◎代謝リスク保有率が全国平均を上回って高い ・業態別では「化学工業」「金属工業」「道路貨物運送業」が高い傾向

富山支部 現状評価・課題・重点施策（案）

○重点施策シート①

①課題

※課題シートより転記

- ◎睡眠で休養が取れていない者の割合が、全国平均を大きく上回る(全国1位)
- ・睡眠と関連のある「運動習慣要改善者の割合」も、全国平均を上回っている

②これまでの取組と評価

◎これまでの取組と結果

- ・スコアリングレポートから富山支部加入者の運動習慣並びに睡眠習慣の要改善者が非常に多いことを踏まえ、令和3年度においては、県と共同分析(国保データとの共有により県全体の健診受診者の約7割のデータを活用)を実施し、市町村別、性別、年齢階級別等の偏りを調査した。その結果、県西部域への偏り等を把握したため、分析結果のニュースリリース、特設ページ(LP)の作成、バナー広告やYouTubeの動画広告を実施。特設ページ上でアンケートを実施し、意識変容を確認(睡眠不足者731人中689人、運動不足者877人中832人に意識の変化が見られた)
- ・令和4年度においては、睡眠習慣に関する加入者調査(約3万人を対象)を実施し、要因の把握と分析を行うべく、取り組みを遂行中。

◎取組に関する評価

- ・睡眠の質が低いことに対し各種メディア等でも取り上げられ、県においても睡眠改善キャンペーンを実施するなど大きな反響を得ている。実態の把握と分析を進めているところであり、その結果も踏まえて改善に向けた施策を検討していく。

③今後の重点施策とその検証方法

◎睡眠の質の改善対策

- ・睡眠習慣は生活習慣病の発症起因のひとつとなる重要なものである。
- 睡眠の質が低い要因の把握や分析結果を踏まえて、今後対策を検討していく予定。
(例:県との共同事業やメディアを活用し「眠りの質を改善するためのポイント」等を案内する など)
- ※現時点での速報結果では、被保険者女性が特に悪い(7時間以上睡眠できている人が有意に少ない)、業態別では印刷関連、金属工業、医療保健衛生業、道路貨物運送業が悪い傾向。

◎検証方法

- ・健診結果(スコアリングレポート)等から、睡眠習慣の要改善者数の減少率(改善率)等により、効果を検証する

富山支部 現状評価・課題・重点施策（案）

○重点施策シート①

①課題

※課題シートより転記

◎代謝リスク保有率が全国平均を上回って高い
・業態別では「化学工業」「金属工業」「道路貨物運送業」が高い傾向

②これまでの取組と評価

◎これまでの取組と結果（第2期データヘルス計画より）
・第2期データヘルス計画の中位目標として「空腹時血糖者 $\geq 100\text{mg}/\text{dl}$ （割合）又はHbA1c $\geq 5.6\%$ （割合）を全国平均以下にする」ことを掲げ、特定保健指導の実施率向上、高血糖者に対する重症化予防、健康企業宣言の事業所拡大等により、改善を図っているところ。
☞ 特定保健指導実施率（被保険者） R1:28.9% → R2:26.5% → R3:33.8%
☞ 健康企業宣言事業所数 R1:375社 → R2:502社 → R3:648社

◎取組に関する評価
・令和3年度に行った中間評価では、2018から2019の単年度において空腹時血糖、HbA1cが改善した者は2,062人（3.6%の改善効果）であり、特定保健指導実施率や血糖未治療者の医療機関受診率を大幅に向上させたことによる効果が出たものと推察される。
一方で、被保険者の平均年齢上昇及び健診受診者数の増加なども影響し、新たな高血糖者が改善者以上に増加したことにより、結果として全国平均を下回るという目標は達成できていない。

③今後の重点施策とその検証方法

◎代謝リスク対策の強化
・スコアリングレポートによると、運動習慣や睡眠習慣がワースト上位であるという課題を抱えているため、富山県と連携し共同分析や改善に関する取組を行うことも予定しており、将来的な県民の生活習慣の改善につなげたい。
・引き続き、特定保健指導実施率の向上及び血糖未治療者を治療に結び付けることを支部の重点事項として取り組み、その結果が健診結果数値として成果に現れることを期待する。
・特に、コラボヘルスの一環である健康企業宣言事業等を一層強化し、中位目標を達成させたい。

◎検証方法
・代謝保有リスクの推移を比較し、効果を検証する